

かけはし



平成26年度学校だより
大府市立共和西小学校

27年2月3日号

校長の巻

1年生の保護者の方からです。「1, 2学期とは明らかに違い、授業に向かう真剣さや子どもたちの発言力には、今回とても成長を感じました。4限の算数の、100までの数字の表から、考えついた、思いついた意見を発表する場面では、表一枚にもかかわらず、“的を射た意見の子” “ユニークで個性的な意見の子” “自分で頭の中で意見がまとまらないまま発言しにきた子” ……、たくさんの子とたくさん意見が出てきたことにとっても驚きました。多種多様な意見を全て受け入れ、最後は答えに導き辿り着く、とても素敵な授業風景でした。一人一人にきちんと目を向けて、子どもの成長を見守ってくださったおかげかと思えます。今後も我が子を含め、子どもたちの成長が楽しみです。学校公開ということで、授業だけでなく、放課の子どもたちの姿を見ることができ、とてもいい機会になりました。」

4年生の保護者の方からです。「1/2成人式、とても感動して参加しました。思春期入り口で少々口が悪くなってきた娘が、素直に感謝の気持ちを伝えられたのは、やはりこのような機会があったのなことだと思います。ぜひ今後も続けていただけたらと思います。ありがとうございました。」

「5年生の音楽の授業、コンサート（1・2組合同）では、笛の演奏も上手でしたが、歌が声を出して歌えているのに感心しました。～後略～」5年生保護者のこの方の結びの言葉は、「共和西の先生方の楽しい授業に改めて感謝しました」です。

1月16日の学校公開日に寄せられた、保護者の皆様のご意見を一部ご紹介させていただきました。何と温かく素敵に見ていただけたのだろう、と胸が熱くなりました。そして、「このような保護者の方たちに愛情深く育てられたからこそ、子どもたちの大きな成長があるのだ」と改めて思いました。先生たちにとっても、このような声が寄せられたことは、まるで皆さんから花丸をいただいた気分。また子どもたちのために頑張ろう、というエネルギーの源になりました。

家庭教育講演会、家庭教育セミナーで、落語と手品を実施したことについて、良い評判をたくさんいただきましたが、親の勉強になる内容が良い、とのご意見がありました。子どもたちにとって、家庭教育が充実していくための、ためになる内容が良いと。「お金の教育」「ネット社会と子どもたち」等。それも大事です。ただ、こんな風にも考えています。

もしかして、もしかして、日常、お子さんへの声かけは、「早く起きなさい。」とか「宿題やったの。」などのような言葉がけや質問攻めにしてしまうような場面が多くなりがちでは？ 子どもたちを育てていくにはもちろん必要ですが。親が指示をしたり注意をしたりするだけのコミュニケーションではなく、家庭の中に、お子さんと同じ目線で興味を一にして会話ができる、そんな時間があったら、親子で会話が弾む、子どもたちはそうすると、どんどん自分からも話すようになって親子のコミュニケーションも深まる、と思うんです。親子でお話する、それは、子どもたちの心をとっても豊かで明るいものにしてくれます。でも、お話するためには、親である部分も大切にしながら、共和西夫さんや共和西子さんという、一人の人としての個性も出して、自分からもお話できる話題をもっていないと、会話は成り立ちません。本年度については、「少しでも、違うおもしろい世界の扉を開ける入り口になりますように、そして、親子の会話が弾みますように」という願いをもって設定した次第です。貴重なご意見ありがとうございました。



シリーズ 先生の横顔

養護教諭 谷澤恵子先生にインタビューしてみました。

- ①今まで出会った方で「素敵だな」「尊敬してしまう」「あこがれの人」と思う方を教えてください。
- ②今いちばんやってみたいことは何ですか。
- ③自分のチャームポイントは何ですか。

- ①尊敬する人は母です。何でもできて温かく、料理も人付き合いも上手で、越せないなあって思います。私の「心の師匠」です。
- ②なかなか会えていない友達と会って、思いっきりしゃべりたい。全てを忘れ一人旅。一週間ほど。
- ③あっけらん、くよくよしない、食欲旺盛、お料理上手、包み込む温かさ……などなど。

ありがとうございました けいたくん募金

1月14日付けで出しました、「堀井けいたくん」の募金につきまして、多くのご協力をいただきありがとうございました。「少しでも早くよくなりますように」という言葉を添えてくださった方、親子で相談されたのでしょうか、お札と100円玉一つの組み合わせ、多分いつもしていらっしゃる募金よりも高額を寄せてくださった方など、募金が入っていた封筒からは、様々な方たちの思いもたくさんあふれ出てきました。集まりました募金は、158,046円でした。1月23日にあいち知多農業協同組合阿久比支店に振り込みました。1月28日、目標額に到達したとのことです。お礼のお手紙を「けいたくんを守る会」からいただきました。

おめでとう 受賞

ビルメンこども絵画コンクール

- * 銀賞 2年 有村悠希
- * 銅賞 2年 白濱蒼之丞, 2年 川勝仁瑚
- 2年 横山瑛

準備着々 中学校への進学

2月2日は、中学校入学説明会。6年生は給食終了後、一旦家に帰り、家の方たちと共に、中学校に集合。体育館で受け付けを済ませ、親子で隣同士に座ります。

27年度、中学校の新生は235名の予定だそうです。クラスは7クラス。62名が7クラスに分かれるとなると、男女共に、各クラス約4名ずつになってしまいます。そこで数年前から、クラス分けについては、本校出身の児童が少しでも多く一クラスになることができるような配慮をいただいています。



案内担当 中学生



受付担当 中学生

授業がいちばん

何と言っても授業が勝負。子どもたちの日常の授業風景をお伝えするコーナーです。

例年は3学期に歴史民俗資料館に出かけていく3年生。今年は、資料館が改装中ということで、出前講座を学芸員の方にさせていただきました。「昔の道具と人々の暮らし」

「共和の町の昭和45年ごろの写真を見ましよう。」
『昔』というのは、みんなのおじいちゃん、おばあちゃんが子どものころぐらいという想定です。



「ごはんを炊くおかまです。これをくどいところに乗せて、ごはんを炊くんです。ごはんが炊きあがったら、おひつというのに移します。昭和30年代に電気釜というのができました。」

火熨斗というのを、代表の子が持ちました。重さを本何冊分かでみんなに教えました。「重い！」というのが実感。火熨斗というのは、アイロンの元、という説明でした。



ダイヤル式の電話もダイヤルを回してみました。震災のとき、ダイヤル回線はつながったので、子どもたちにも、そのことを伝えているとのこと。



資料館から持ってきた昔の道具を順番に触らせてもらいました。珍しそうに触ったり見たりする子どもたち。「昔の道具は重い。」「今の道具は便利。」などと、道具の進歩に感じ入っていました。